

こどもプロジェクトの活動（2004年設立）

東京都杉並区阿佐谷にて福島からの避難親子の居場所づくり

復興庁および福島県補助金（2021年まで）にて開設。

2017年より地域に受け入れてもらうために「**リベルタこども食堂**」を月2回開催。

コロナ禍でテイクアウト、パントリーに移行して拡大 160食、60世帯

* 福島県の子どもたちの保養活動 長野県上田市 夏冬年2回 全17回（2019年まで）

東京都武蔵野市吉祥寺にて「**リベルタこども食堂セカンド**」にて成蹊大学学生とひとり親家庭のパントリーを月1回開催（成蹊大学ボランティアサークル協力）（2021年より）

武蔵野市在住ひとり親、福島避難家族、成蹊大学困窮学生 30食、20世帯

その他、ひとり親宅食（福島避難家庭等）を寄付食糧で実施 30世帯

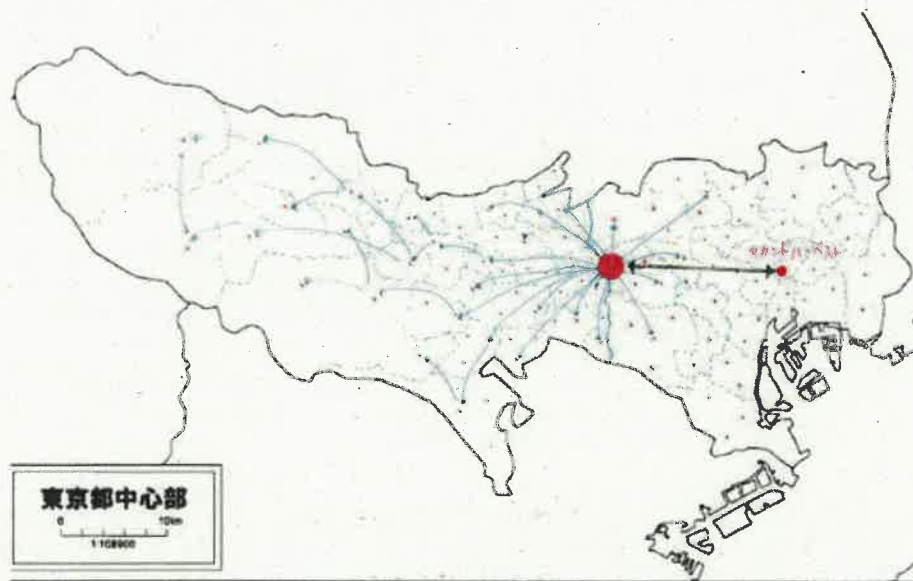
目指すところ（都立防災公園和田堀公園周辺）

大型フードバンクを東京の中央部につくり、東京のこども食堂やパントリーに企業等の寄付食糧を分配し、防災公園等でこども食堂を開催、防災の拠点として、すべての子どもを真ん中にした「**こどもフードパークTOKYO**」のモデル事業を作ること。

こどもフードパークTOKYO

こども食堂が防災の拠点になる

災害時には自治体を超えすべてのこどもに食糧を



● こどもフードパークTOKYOモデル事業エリア 東京中央部
(杉並区、武蔵野市) /大型フードバンク予定

● 東京東部大型フードバンクあり

・ 中型パントリー拠点 (各市区町村約2ヵ所)

こども食堂・パントリー、小学校区に一つを目指す

企業
市民
生産者
(フードロス)



→ 自治体
↓
生活困窮者

広域大型フードバンク (東京中央部に設置)



企業
市民
生産者



各中型パントリー拠点/施設



企業
市民
生産者



各こども食堂・パントリー・宅食

(困窮者、虐待、ネグレクト等要支援児にアウトリーチできる)

自治体や社協に相談・連携





こどもフードパーク
TOKYO

こどもフードパークTOKYO構想

安心、安全なまちづくりをめざして

東京の真ん中、杉並区の都立防災公園(和田堀公園)に大きなパントリー拠点のあるこども食堂を作り、すべての子どもに食料がいきわたるようなモデル事業を作ろう。
「こどもフードパークTOKYO」では、東京都内小学校区に一つのこども食堂、各市区町村に2〜3ヶ所のこども食堂パントリー拠点づくりを目指します。

杉並区の都立防災公園
災害時にも全ての子どもに食料を
平常時には食のサポートを通じて子どもたちに寄り添い、
災害時には、炊き出し、食料配布、地域ネットワークを
活かした助け合いの基盤



杉並区のパントリー拠点について

現在、杉並区内には個々のこども食堂に食品分配できるよう阿佐ヶ谷拠点、荻窪拠点、和田拠点があります。



パントリー拠点の様子



パントリー拠点で日常できること

企業や地域からの寄付食品の受け入れ
保管とこども食堂への分配 食料のローリングストック

パントリー拠点づくりに必要なこと

分配するためのたくさんの寄付食品がストックできる倉庫やスペース、
教会や企業、個人の自宅など様々な場所や形態でできます。
業務用冷蔵庫や冷凍ストッカーなどが整備されると、企業からの
冷凍品や冷蔵品も保管できます。

杉並区の拠点とこども食堂



大型拠点（杉並区和田）
立正佼成会内広域避難場所



リベルタこども食堂・パントリー（阿佐谷）



杉並こども食堂 約40ヶ所 5グループ
荻窪、西荻、井草、和田、阿佐谷高円寺

企業、教会、民家などに冷蔵庫や冷凍ストッカーを置き食糧をこども食堂で分配



武蔵野市の拠点とこども食堂

NPO 法人こどもプロジェクト 協力企業・団体等

リベルタこども食堂・パントリーむさしの倉庫

サンキョー株式会社

株式会社アイピー21

エプソン社会の幸せ支援基金

富士住建・SAZAIE むすびえこども食堂基金

日本大学武蔵俊英学寮寮友会

(敬称略)



むさしの倉庫
武蔵野市内のこども食堂
2団体共有



リベルタこども食堂
セカンド
(吉祥寺民家)

ひとり親家庭と成蹊生
のみ対象

こどもフードパークTOKYO

●動機 ◆目標 ★到達点

●こども食堂は地域を超えてつながれる場所で、多くの支援者は子どもを分け隔てしない。広域の地域支援体制を構築することに協力的である。防災の拠点としての機能を果たせる。

●子どものいる家庭の困窮や、地域の中で見えない課題について社会が関心をもってきており、こども食堂への寄付が広がってきている。こども食堂の数も増え続けている。

◆規模が小さくボランティアで運営するこども食堂やパントリーが、物価高騰による食糧需要に応えられるように、東京中央部（杉並区周辺）に広域大型食糧倉庫を作り、各市区町に中型パントリー拠点（2か所以上）を作りこども食堂等への食糧の分配を目指す。

◆地域に根付いた各こども食堂、パントリーをネットワークして、漏れのない子ども・家庭支援体制を構築する。

◆困窮家庭・虐待・ネグレクト・引きこもり・孤立など地域から見えにくい様々な課題にアウトリーチし、必要とあれば行政につなげ、災害時等には食糧配布所として各中型パントリー拠点も配給ができるよう地域の防災の拠点とする。

◆企業や市民の意識を高めこども食堂防災拠点モデル事業として全国に広める。

★2030年ごろまでに緊急時の食糧配給のアクセスを整える。すべての子どもを真ん中にした共助の社会を実現する。